

平成22年度医学部FD(教員研修)開催！

医学教育センター長 福 沢 嘉 孝

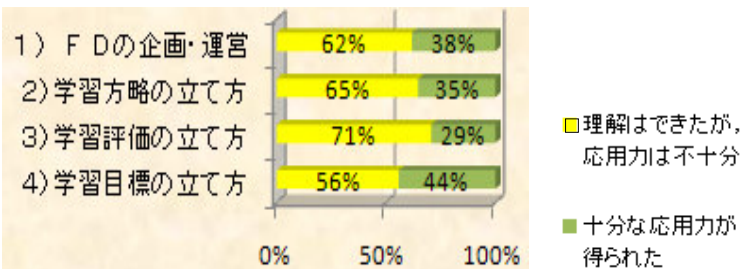
平成23年1月15日から16日までの2日間に亘り、邦和セミナープラザ(名古屋市港区)において、平成22年度医学部FD(教員研修)「第4回医学教育ワークショップ」が開催されました。

「愛知医大の卒前教育の問題点とその改善のストラテジー その4」の研修課題に対して、過去最高の34名の先生方が参加下さいました。今回は、これまで以上に熱い議論が展開され、本学の医学教育の向上に繋がる大きなプロダクトが得られました。今回主眼を置いた「臨床実習前教育」及び「参加型臨床実習」の課題を中心に、全ての参加者がそれぞれの持ち場において、研修で得たものを積極的に活かし医学教育の向上を目指して頂けるのではないかと期待されます。

また、研修後、参加者により今回の研修の“振り返り”を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

今回のワークショップ参加者の“習得度”は？

	理解ができなかった	理解はできたが、応用力は不十分	十分な応用力が得られた
1) FDの企画・運営	0	21	13
2) 学習方略の立て方	0	22	12
3) 学習評価の立て方	0	24	10
4) 学習目標の立て方	0	19	15



今回のワークショップはどのような“評価”だったの？

1) 内容の価値について

価値なし	価値少ない	やや価値あり	価値あり
0	1	13	19

2) 内容に対する時間について

少なすぎ	やや少ない	やや多い	多すぎ
0	22	10	1

3) 内容の難易度について

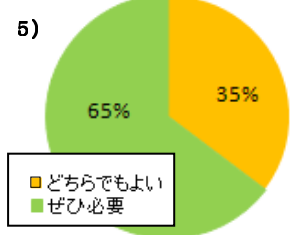
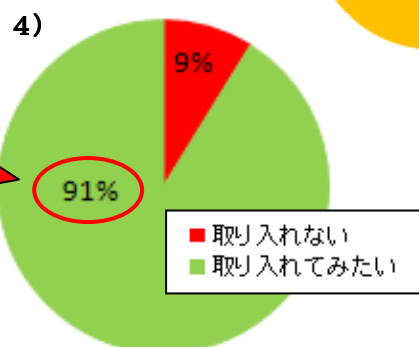
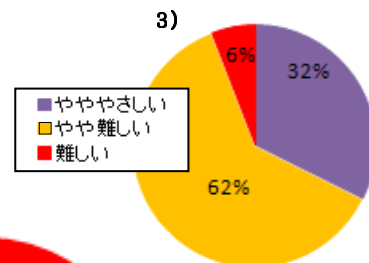
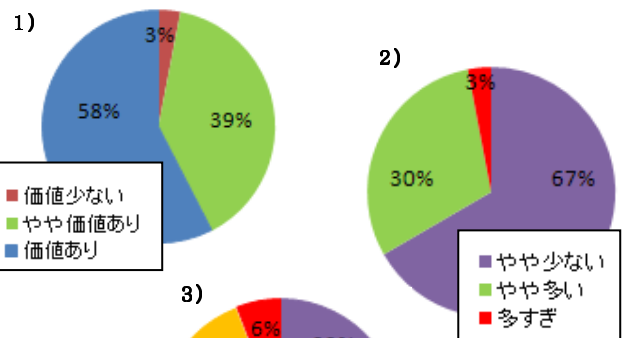
やさしすぎ	やややさしい	やや難しい	難しい
0	11	21	2

4) このような教育法を、今後取入れてみようと思いますか？

取り入れない	取り入れてみたい
3	31

5) この規模のワークショップを持続することについて

必要ない	どちらでもよい	ぜひ必要
0	12	22

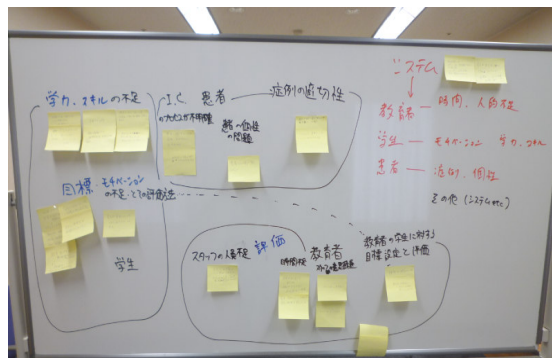


今回のワークショップにおいて”良かった点”は？

- ◆ 基礎医学や臨床医学の先生と知り合えた。
- ◆ ①新しい教育的技法が習得できて、今後の講義に取り込もうと思っています。
②学生の学習スタイルを考えた上に、講義の内容ややり方を考慮します。
- ◆ 基礎系教員の考え方が分った。
- ◆ このようなシステムがあることを知った事が良かった。
- ◆ 基礎医学系の先生と教育について話せることがよかった。
- ◆ 医学教育の問題点を知ることが出来た。ただ医学での教育についても聞く機会があり、参考になった。他科の先生方とも交流出来た点良かった。
- ◆ 参加者と議論ができ、良かったと思います。今回の研修によって、教育問題に対する認識のみならず、問題解決する方法の一つも学んだことが役に立ちます。
- ◆ ①最近の医学教育の動向、方法論に触れることが(自分のものにするのは大変ですが)出来た点。②他部門の先生方とコミュニケーションをとる機会があった点。
- ◆ 教育法についてゆっくり考える時間をくれた。
- ◆ 学内の教員と会話が出来たこと。



SGD(Small Group Discussion)



- ◆ 医学教育を考える事自体に意義がある。
- ◆ 学習目標から評価までの流れがわかりました。
- ◆ 大学の学習日程を決めるのがとても大変なのが良くわかりました。
- ◆ 他科の先生と一緒に内容を検討することが出来て良かった。(食事の時にいろいろ話せた。)
- ◆ 医学教育の現状・問題点を以前より理解することができた。
- ◆ ワーキンググループで命題をまとめ上げるための役割分担をして組み立てていくプロセスが興味深かった。
- ◆ 教育論を受けないままの教員についてはやはり疑問を感じていたので、非常にありがたいWSでした。
- ◆ GIO・SBOから方略・評価までシミュレーションを通じて理解が深まった。
- ◆ 学習目標・方略・評価について今までに気付かなかったことが多い事が理解出来た。臨床(5～6年生)実習を受ける学生に足りない能力がはっきりしたので、基礎の授業や実習では、それらのトレーニングを考える必要があると感じた。

- ◆ ①親睦 ②短時間で密度の濃い研修
- ◆ 他の先生方と仲良しになれたこと。臨床指導医のワークショップに以前参加したことがあるので再確認できた。藤崎先生の話が聞けたこと。
- ◆ 多くの教官の意見が聞けたこと。
- ◆ 他の先生と知り合う事が出来たこと。
- ◆ 様々な部門の方々意見交流が出来た。
- ◆ 他科の先生方と交流がはかれた。様々な視点から物事を考えることの重要性を学んだ。
- ◆ 他科の先生と知り合いになれること。
- ◆ 教育に於ける多面性・多様性を認識できた。
- ◆ 時間厳守であった点



全体発表

今回のワークショップにおいて”改善すべき点”は？

- ◆ 基礎科学の教員には馴染みの薄いテーマだった。
- ◆ 実際の現場での実行は難しいかも。欧米との教育の距離感もあるかも。
- ◆ WSの中での方向性についての指導がもう少しあればよかったと思う。
- ◆ 全体的な流れを理解出来た。
- ◆ お題がよく分らなくて、最初に混乱していた場面がありました。説明が必要と思います。
- ◆ 充実した内容であったが、これを今後の教育活動の中でどう生かしていくかという点が問題。
- ◆ 情報交換会は必要がない。(予算の無駄を感じた)少しでも借金や赤字を減らすべきだ。
- ◆ 教育についていわゆる講義をもう少ししていた方がいいと思います。
- ◆ 4回に分かれている分、自分以外の班の流れが発表の際にわかりにくい。
- ◆ 週末の時間がとられるのが正直つらいです。
- ◆ 資料の一部など前もって学習しておくことも必要。
- ◆ 各SGDの時間が少ない。SGD1で出た愛知医大の問題点について、それ以降のSGDに反映できない。(SGD以降よりも、SGD1について、さらに突っ込んだ議論こそが大学にとって重要)
- ◆ 私自身、リクスの実態や経験がなかったので、議論に参加するのが難しい点があった。学生の態度やセッティングなど教官側にはどうしようもない事例は非常に難しい問題であるので、どうすればよいのかという事はあまり解決できないと思った。
- ◆ 総論的ですぐ実践できるかは疑問。
- ◆ まとめるまでの時間にせかされたのは悲しかった。テーマは難しかった。
- ◆ 各課題の前の説明がもう少し詳しく聞けたら良いと思う。
- ◆ もう少し突っ込んだdiscussionが必要と感じた。
- ◆ 基礎で参加しているので、テーマがわからない。
- ◆ 今回出て来た意見が実際に取り入れられるかが疑問。
- ◆ 目上の先生を「さん」で呼ぶ事に違和感を覚えた。
- ◆ 平均年齢が高く、教授クラスばかりのため、講師クラスの出席を望む。
- ◆ SGDの時間が短く、徹底した検討が加えられないまま発表に至る事が多かった。
- ◆ 説明で早口な講義があった。

FD部門長としての総括

米田 政志

石川学長、佐賀医学部長の下、福沢センター長、小島(化学)、中尾(消内)、脇田(循内)、林(医教)各部門員の先生方に部門長の私を加えた6名がタスクフォースを担当し、岐阜大学医学部医学教育開発センターの藤崎和彦教授に特別講演を頂きました研修が無事に終了しました。参加・協力下さった皆様、この場を借りて御礼申し上げます。部門長としましては、回を重ねる度に、「医学教育ワークショップ」の役割と重要性が年々高まってきていることを実感しています。今後も、「振り返り」で得られましたご意見、ご要望等を基に、本学に必要と思われるテーマを積極的に取り入れる等、研修プログラムの一層の充実を図りたいと考えております。